

災害エスノグラフィーを活用した知恵の 共有化の試み

富士常葉大学大学院環境防災研究科

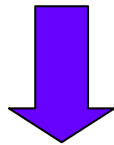
重川 希志依

エスノグラフィーとは

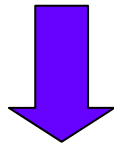
- エスノグラフィー = 民俗誌(学)
異なる人種・民族に対する科学的な研究
自分たちの知り得ない異文化を知る
- 災害エスノグラフィー
= “災害” という異文化を理解するための方法

災害対応で求められるもの

- 初めて遭遇した状況下で最善を尽くすことが求められる
- 応用問題を解く問題解決能力が求められる



災害に対する知識を養う様々な手法



- 災害ESノグラフィーの重要性

課題1:

“形式知”による災害理解の限界

- データ重視の「**いわゆる**科学的な」情報

 理学, 工学の分野ではこれが学問

課題2

“マスコミ報道”にもとづく 災害理解の限界

- ステレオタイプ¹の報道の
されかた

→ 気の毒な被災者
vs 役に立たない行政

「公」の援助なき大国

地震後一年、被災者の一
人として私が今考えること
は、戦後五十年の日本は
「経済大国」を形成したか
も知れないが、ついに「人
間の国」をつくり出してこ
えなかったことだ。
今さら、外国にまでよく
知られた、被災地の「棄
民」としか言いよらない
人間無視の政治を改めて論
じて立てるつもりはない。そ
れは、一年たっても明日の
生活再建の見込みも立たな
い。

二つは人間の国か
小田実
埋め立て、超高層建築をおもてはやされた「被災神
も

ち組しるる億がのはのちに
ふもめめめ
上二千すに
きに

と厚生省が被災自治体に通じた緊急措置だった。一年後、その数は四百人に減った。バスに乗った五人をはじめ、四十八人が入所した白寿園ではこれまで十七人が自宅に戻った。

五味則休さん(80)は、一五万九千三百戸→七十四万九千三百戸。日のほとんどをベッドの上で過ごす。内臓が悪く、左腕がしびれる。兵庫区にある「危険、または修理不能」五万八千六百六十戸の「火の島」のボスタ、兵庫県庁近くのプレハブ舎。復興のシンボル張られた部屋では、復旧の家賃算定や建設地

しわ寄せ

高齢者の暮らしに不安

んらは、避難所での生活に耐えられず、神戸から約七

いくよ。わしはいつまでも置いてきぼりや」

まいった住宅建設の工事

耐えられず、神戸から約七

た。うち九人は「死亡退

この仮設を出ていった五

宅調査の結果だ。

九七年度までに被災

耐えられず、神戸から約七

た。阪神間の施設は、い

代、五十代だった。

た。各府県警が検視した五

二万五千戸。うち、県

耐えられず、神戸から約七

た。西神第七仮設住宅は、

四万九千世帯が入居した

八七・八多が古い木造家屋

九百戸すべての公的

耐えられず、神戸から約七

た。神戸市のニュータウン

兵庫県の仮設住宅全体でみ

八七・八多が古い木造家屋

九百戸すべての公的

避難所とは？

- 気の毒な被災者が肩を寄せ合ってくらすところ

➡ 避難所とは恐怖と不安に駆られた尋常でない人が1,000人以上集るところ

災害時の医療機関は？

- 負傷者殺到，混乱の病院

→ 病院に来たのは死者か軽傷者
病院内では誰も文句をいわない静寂さ
夕方以降ぴたりと患者がこなくなる

善意の救援物資？

- 暖かな善意のこもる救援物資，被災地で感謝される

→ 最初の2日間，救援物資の積み下ろしに忙殺あまった救援物資のために貸し倉庫代が1,200万円

国の支援は



中島 克元

安心は生まれない

司会 復興は進んでいるか。
森崎 区画整理や市街地再開発事業など都市計画地域の中で、以前からまちづくりの動きがあったところはある程度進んでいる。しかし、震災で突然事業計画が出なくなった。震災前は「白土地区」だと、復興がいつになるか分からない。
中島 私に住む神戸市兵庫区の松本地区は、八・九のちみ六が震災後の火事で焼失、残りの家も多くが倒壊した。それでも、区画整理の計画が持ち上がった。五月にまちづく

補助してくれれば



森崎 通行

ると考えればいい

根本になっている。急がざるを得ない背景があったのだが、あの大震災の中で十分な精査もできず、住民の意見も分断しなかった。
森崎 東京の人にとって声援といえは、大きな励みだが並んだまじという印象が強いだろうが、実際は三角地があったり、狭い道に面した不適格住宅が多かったり、住民の意思も、町の歴史とともに歩んできた人がいる半面、たまたま住んでいるだけ

主役は住民

信頼が力

元 建築家の森崎通行、神戸大学教授の宮崎益輝、芦屋市長の北村春江の四氏に話し合ってもらった。
(司会) 政井孝道・朝日新聞論説委員

出席 室崎 益輝、北村 春江、宮崎 益輝、神戶大学教授、専攻は都市防災計画、問題点や恒久住宅の需要調査などを手掛ける。芦屋市長。震災で自宅が全壊。5年ほど再建される。井藤士。信越。

ボランティアは すべて善？

- 阪神・淡路大震災は
ボランティア元年

→ ひと目被災地を見て
みたいボランティア
ほとんどのボランティア
は1泊2日で満足

1.17 教訓を忘れた



「17」を追った。

各地

「国は至らない所を
ボランティア任せ」

ボランティアを称賛しているが、この街頭募金やバザーを開いて、自分分の至らない部分を、ボランティアへのサビシヤキを若し者にカバリーさせようとする姿勢だ。震災に国家や自治体がどう対応したか、震災はまだ終わっていない、私は文字に書き残す」と話す。疑問を投げかけた。

二十二人が亡くなった西

「国は至らない所を ボランティア任せ」

■訓練も工夫

直下型地震が起きれば大きな被害が予想される東京都では、十七日、タクシー会社でなる東京乗用旅客自動車協会と在京ラジオ局が

災害時の現場情報を連絡する「タクシー防災レポート」が始まった。三十七台で、消火器や救急セット、

衝撃的でま付いている政に生かした。

神戸市兵庫区の湊川中学校と会下山小学校は合同で防災訓練。地区ごとにまとまって集団下校した。周囲は

は消防機関は二十五日

松本通で

久消防署

被災者の不満はそれほど大きい？

- 対応の遅さに被災者の不満増大

→ 一生懸命やった人ほど「もっと何かできたのに・・・」

→ 被災者が同情したくなる位、責められた行政と責めた被災者

限界を超えるためのエスノグラフィー

- 断片的情報ではなく、災害のプロセスを理解する
- ステレオタイプの情報ではなく、多面的に事実を見つめる

調査の方法

- ①インタビュー, グループディスカッションの実施
- ②個々人や組織が経てきた災害過程を明らかにする
- ③災害エスノグラフィーの体系化
 - 全く新しい事実の発見
 - 災害現場でくり返し起こる, 普遍化すべき事実を抽出する
 - 特異なことも切り捨てず記録する

災害エスノグラフィーの活用

- 読み物
- 映像
- ゲーム

暗黙知を発掘し共有化を図る工夫

一日前に知っていたら・・・

- 被災自治体の失敗談，苦勞，乗り越えるための知恵と工夫を記録するためのしくみ
- 各種法制度で報告が義務付けられている項目に準じ，これらの情報を記録し伝える

効果的な普及方法

- 生協を通じた防災用品販売の活用
- 魅力的な商品開発・・・ゲーム, DVD
- 研究者・技術開発者と商品開発・販売者を別に(ex: 帰宅困難者マップ)

国民にとって最も大きな影響(効果)をもつもの

- “マスコミ報道”にもとづく災害理解
- 災害発生時, 国民の意識と興味が高まっているときに「〇〇〇」と報道されるか
- 新聞のヘッドラインが持つ力